

Eureka V

六年制通信 No.34 平成30年2月17日(土)号

四つのC

試合に勝つための四つのCというのを聞いたことがありますか。競技によって多少違うかもしれませんが、普通は condition, concentration, control, confidence のことを指すようです。団体競技だと combination なんかも加わりそうですね。コンディションは自分の体調のこと、コンセントレーションは集中力、コントロールは自分の技量を正確に制御すること、コンフィデンスは自信です。これら四つがそろえば試合に勝てる、というか少なくとも自分の実力を出せるということです。あとは、cool-headed つまり冷静さをつけ足してもいいかな。

ウォルト・ディズニーもまた四つのCに触れていますが、こちらは試合に勝つというわけではなく「人生で成功するための」Cです。彼は curiosity, confidence, courage, constancy を挙げています。順番に、好奇心、自信、勇気、継続の意味です。人生で成功するというのは、夢を実現することだとも言っています。そもそも自分の夢がなくては仕方ないのですが、夢を見つけた人はこの四つを忘れてはいけないというわけです。この中で、私は constancy (継続) が最も重要だと考えています。訳語としては constancy は「一度決めたら変えないこと」が、この場合一番いいのでしょうか、変えないというより「継続して物事を行う」と解釈した方が、若い君たちにはいいと思います。もちろん好奇心や自信や勇気も大切ですが、これらは努力して身につけるものではないように思います。しかし、継続する力だけは私たちの努力で手に入れることができます。そしてこの力があれば、夢を(空想ではなくて夢を)あきらめることはありません。昔から「夢が逃げるのではない、逃げるのは常に人だ」と言われています。夢が遠く離れていくのではないのです。自分が夢から走って逃げているのです。

好奇心、自信、勇気、継続のうち、時間を表わす言葉は継続だけです。ディズニーは、この言葉を入れることによって、夢をかなえることの困難さをも言っているように、私には思えます。夢は簡単には実現できません。ですから、君たちも辛抱強く継続する力を身につけなければいけません。でも、どうすればいいのでしょうか。その方法は、今の君たちの生活の中にいくらでもあります。継続できることがいくらでもあります。一度やると決めたことがいっぱいあるはずです。思い出してごらんください。そして、続けてごらんください。

ちなみにチャーリー・チャップリンは人生で大切なものは何かと問われ「some money, some courage and big love」と答えています。確かに「貧すれば鈍する」と言いますから、心豊かに生きるためにも多少のお金は大切ですよね。

6年生の皆さんへ

もう親しく君たちに話す機会がないので、最後に言うておこうと思います。卒業記念号の「万華鏡」にも書いたのですが、君たちには、偉くならなくて構わないから市井の人として清く正しく生きていってほしいと思っています。やがて君たちのほとんどが結婚をし、子をなし、父となり母となるでしょう。その人生は若い君たちの目から見れば平凡でつまらない人生に見えるかもしれません。たった一度の人生なのだから、自分をもっと波乱万丈の、自分だけの特別の、輝ける人生を送りたい、そんなふうに考えるかもしれません。しかし、「普通に」生きることは実は大変尊いことだということを知ってほしいと思います。それに、波乱は何も世の中の営みとして君の身に起こることばかりではありません。宣長を見てごらん。彼は鈴屋にあって35年の年月をかけ『古事記伝』を書きました。その出版を見ることもなく72歳で死ぬわけですが源氏物語の講義をしながらの、その歳月の間に、世の営みとしては彼の身にほとんど何も起こっていないでしょう。しかし、彼の頭の中ではどれほどの波乱があったことか、そう小林秀雄が書いています。どんなに平凡に見える人生でも、望めば、波乱はいつも頭の中にあるということをお忘れしないでほしいと思います。

君たちはこれから様々な進路に進むでしょう。それが本意であろうとなかろうと、自分の選んだ道に違いはないと思います。どの道に進もうと、それが自分の選んだ道である限り、そこに君たちの青春はある、そう私は信じています。

朝礼などで、私は常に二つのことを言うてきたつもりです。一つは、世の中には努力以上のことは起こらないということ。もう一つは、公に尽くせる人間になれということです。私はこの二つを間違っているとは思いません。大人とは公に尽くせる人を言うのです。TVなどのメディアに映る、子供のような大人（自分の主張ばかりを品のない発音でしゃべる人々）になってほしくないと思います。最後に、(上質の)ユーモアを解する大人に、そして、穏やかでやさしい大人になってくださいね。

今週のおすすめ

・乙一 『失はれる物語』 (角川文庫)

短編集です。表題作を読んで、私は「ジョニーは戦場へ行った」という映画を思い出しました。今まで観た映画の中で、良くも悪くも印象に残りすぎて二度と観る気にならなかったのがこの「ジョニー…」です。これは全く救いのない反戦映画で、デートで観るものではないですね。あらずじは紹介しませんから、気になる人は自分で調べてごらんください。さて、短編集の最初にある「Calling you」も映画を思い出させます。キアヌ・リーブスとサンドラ・ブロックの「イルマーレ」です。映画の方は時空を超えた手紙のやり取りですが、短編では頭の中だけに存在する携帯電話が登場します。よくまあ、こんなプロットを思いつくものだと感心します。「イルマーレ」のハッピーエンドは容易に想像がつかますが、「Calling…」のエンディングは秀逸です。よく考えられているし、複線もちゃんと張られています。是非ご一読を。

BGMはアバの *One Man, One Woman* でした…。